

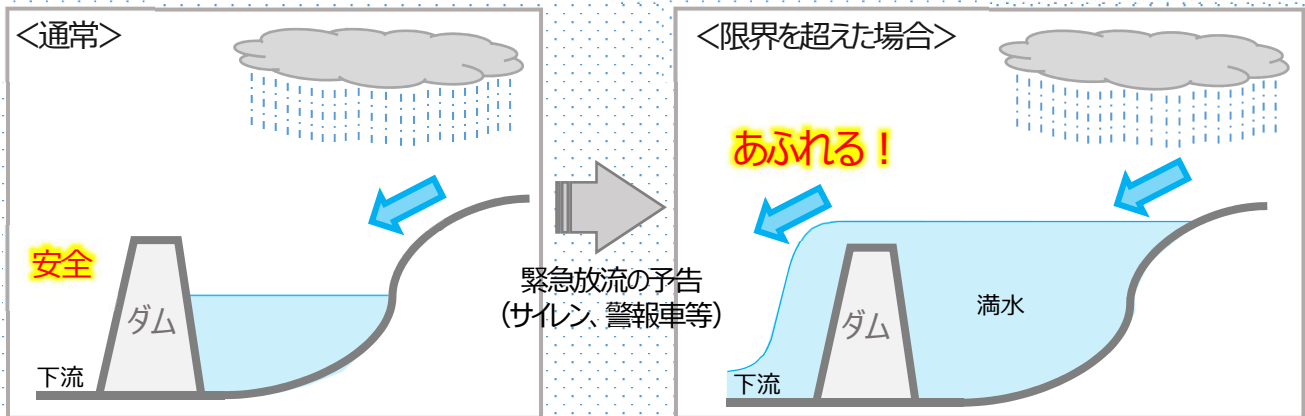
平成30年7月豪雨では、中四国地方を中心に、多くのダムにおいて大規模な洪水が発生しました。これは、ダムが満水となり、上流から流れてくる雨水を貯めることができなくなった結果、ダムの下流で甚大な氾濫被害が生じたものです。

気候変動により想定外の洪水リスクは高まっています。鳥取県内でも同様の被害が発生する可能性があります。ダムの限界を知り、身を守るための避難行動が必要です。

ダムの限界

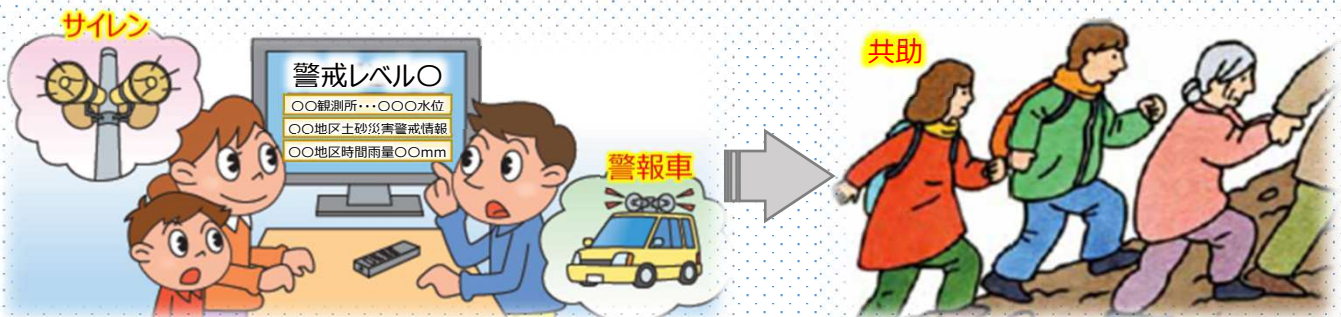
ダムの能力の範囲内の雨であれば、上流から流れてくる雨水をダムに貯め込み、下流は安全。

平成30年7月豪雨のような大規模な雨が降り、ダムの能力の限界を超えると、ダムに流れてきた雨水がそのまま下流へ流れていき、下流では氾濫被害が発生。



ダム放流への備え

サイレンや警報車でダム放流の予告があった場合は、地域で助け合って速やかに避難をしてください。



鳥取県では、ダム放流での犠牲者ゼロを目指し、分かりやすく適切に情報を提供していきたいと考えています。

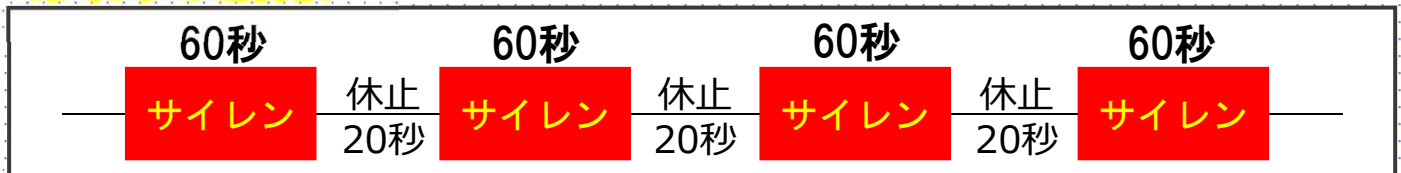
まずは、ダムの下流にお住まいの皆様に対して、ダムの機能や放流情報の伝達方法等をご説明しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

放流の予告

異常降雨等により、ダムへ入ってくる水が多くなった場合、洪水調整のため自然放流（一定以上水位になると自然に越流）を行います。

その場合、前もって警報局（百谷、滝山、立川）からサイレンを鳴らします。また、警報車による通報を行います。

<サイレンの鳴り方>



<アナウンス例>

～こちらは、鳥取県土整備事務所です。百谷ダムからの放流量が大幅に増加する見込みです。川の水が増えて危ないので、川から離れて十分注意してください。～
・・・繰返し2回・・・

<警報局の位置、警報車経路、水位観測位置>

